

# 公共事業再評価調書

整理番号 H24-4

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (10年)	再評価後 (年)	その他 ( )
---------	-----	------------	----------	---------

## 1 事業概要

事業種別	道路改築事業	事業主体	県 市町村 其他 ( )																																																
事業名	県道改築事業	地区名等	岩崎西目屋弘前線 川原平～田代 市町村名 西目屋村																																																
事業方法	国庫補助 交付金 県単独	財源・負担区分	国 65 % 県 35 % 市町村 % 其他 %																																																
採択年度	平成15年度 (用地着手 平成15年度 / 工事着手 平成15年度)																																																		
終了予定年度	平成25年度 (平成 - 年 - 月 工期変更 当初計画時 平成 - 年度)																																																		
事業目的	本路線は、津軽地方と西海岸地域を連絡するとともに白神山地世界遺産地域へアクセスする幹線道路である。当該工区は、津軽ダム建設（平成3年度建設着手）に伴う付替道路及び資材運搬等の工事用道路としての整備を進めている。平成9年度より着手していた下流工事用道路は平成14年度に完成したため、引き続き平成15年度より当該工区に着手している。直轄ダム建設関連事業として整備を行うものである。																																																		
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>12.93 km</td> <td>12.93 km</td> <td>0 km</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>12.93 km</td> <td>12.93 km</td> <td>0 km</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>120,000 m<sup>2</sup></td> <td>120,000 m<sup>2</sup></td> <td>0 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>9 箇所</td> <td>9 箇所</td> <td>0 箇所</td> </tr> <tr> <td>トンネル工</td> <td>3 箇所</td> <td>3 箇所</td> <td>0 箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業計画については、当初計画時と比較して変更はない。</p>			区 分	当初計画時	再評価時	増 減	計画延長	12.93 km	12.93 km	0 km	改良工	12.93 km	12.93 km	0 km	舗装工	120,000 m <sup>2</sup>	120,000 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	橋梁工	9 箇所	9 箇所	0 箇所	トンネル工	3 箇所	3 箇所	0 箇所																								
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																
計画延長	12.93 km	12.93 km	0 km																																																
改良工	12.93 km	12.93 km	0 km																																																
舗装工	120,000 m <sup>2</sup>	120,000 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>																																																
橋梁工	9 箇所	9 箇所	0 箇所																																																
トンネル工	3 箇所	3 箇所	0 箇所																																																
事業費	<p>当初計画時総事業費 8,858 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>～21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>小 計</th> <th>25年度～</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8,053</td> <td>805</td> <td>8,858</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( 1,207 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 1,207 )</td> </tr> <tr> <td>年 月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>6,926</td> <td>570</td> <td>580</td> <td>610</td> <td>8,686</td> <td>172</td> <td>8,858</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>( 1,156 )</td> <td>( 51 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 1,207 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 1,207 )</td> </tr> </tbody> </table>				～21年度	22年度	23年度	24年度	小 計	25年度～	合 計	計 画					8,053	805	8,858	(うち用地費)	( )	( )	( )	( )	( 1,207 )	( 0 )	( 1,207 )	年 月変更								実 績	6,926	570	580	610	8,686	172	8,858	(うち用地費)	( 1,156 )	( 51 )	( 0 )	( 0 )	( 1,207 )	( 0 )	( 1,207 )
	～21年度	22年度	23年度	24年度	小 計	25年度～	合 計																																												
計 画					8,053	805	8,858																																												
(うち用地費)	( )	( )	( )	( )	( 1,207 )	( 0 )	( 1,207 )																																												
年 月変更																																																			
実 績	6,926	570	580	610	8,686	172	8,858																																												
(うち用地費)	( 1,156 )	( 51 )	( 0 )	( 0 )	( 1,207 )	( 0 )	( 1,207 )																																												

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況			計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	事業費割合 (うち用地費)		98.1% [ / ] ( 100% ) [ / ]	107.9% [ / ] ( 100% ) [ / ]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 ( 5,357百万円)	100%	100%
		舗装工 ( 951百万円)	84.7%	93.2%
		橋梁工 ( 2,550百万円)	93.6%	102.8%
説 明	津軽ダムの事業主体である国土交通省との事業協定に基づき、本路線における工事用道路及び付替県道工事については、国・県の費用負担により事業を進めている（施工は国土交通省）。国土交通省との事業協定では、ダム事業に係る道路事業の完成期限は「平成25年度」と示されている。道路事業完成後の試験湛水を経て平成28年度の津軽ダム完成を目指している。			
問題点・ 解決見込み	「津軽ダム基本計画」に基づくスケジュール管理が行われているため、事業工程上の大きな問題はない。道路事業（工事用道路部、付替県道部）に係る用地買収は完了済。			
事業効果 発現状況	下流工事用道路（L=5.1km）は、平成19年度から順次供用しており、平成24年3月に全線供用済。ダムサイト迂回路区間（L=3.5km）は平成19年7月に完成・供用開始 平成20年度～ダム本体着工 平成25年度：付替県道部完成予定			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成21年3月に閣議決定された「社会資本整備重点計画」では、地域社会の活力を維持し、豊かな暮らしを実現するため、また、安全で信頼性の高い社会の実現を図るために、選択と集中の方針の下、重点的・効率的に道路整備を進めていくことが必要とされている。</p> <p>従来の事業評価手法を見直し、道路における防災機能の位置づけを再検討する機運が高まっている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>自動車交通への依存度が高い本県にとって、道路整備に対する根強い要望がある。</p> <p>東日本大震災(H23.3.11)を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能(緊急物資輸送や避難路等)確保の重要性が再認識されている。</p>	
	当地区における評価	<p>昭和35年に完成した目屋ダムは、平成24年3月現在で52年経過している。津軽ダムは、この目屋ダムの再開発事業でもあり、治水・利水・環境面での期待が大きく早期完成が求められている。</p> <p>また、当該地域は世界自然遺産「白神山地」の玄関口に位置することからも、観光産業を支援する道路整備に期待が寄せられている。</p>		
必要性	<p>津軽ダム基本計画の第2回変更時(H19.8.21告示)において、ダム機能の見直しや事業費の変更が行われた(1,450億円 1,620億円)</p> <p>ダム本体の事業費増加に伴い、ダム本体に関する事業再評価を国が実施した結果、費用対効果(B/C)は約1.3と試算され事業の妥当性が認められた。</p> <p>当該道路事業は、津軽ダム建設に必須となる工事用道路及び付替県道事業であり、ダム本体建設スケジュールと整合を図った工程管理が必須となっている。</p>			(a) . b
適時性	<p>津軽ダム基本計画におけるダム完成予定年度は平成28年度</p> <p>試験湛水などのスケジュールから逆算した道路部の完成予定年度は平成25年度(国との協定締結済)</p> <p>現在、道路事業としてはダム水没エリアとなる付替県道部の工事が国により進められており、完成予定年度通りの平成25年度の完成を見込んでいる。</p>			(a) . b
地元の推進体制等	<p>度重なる濁水被害や洪水被害に見舞われている岩木川流域住民にとって、津軽ダムの早期完成には強い要望がある。</p> <p>津軽ダム建設促進期成同盟会(S59年2月設立、弘前市を含む8市町村で構成)により、津軽ダムの早期完成が求められている。</p>			(a) . b
効率性	<p>岩木川は流域面積2,540km<sup>2</sup>を有する一級河川で、弘前市をはじめ5市8町4村からなる約48万人の流域人口を抱える。岩木川水系では、近年においても大きな出水による被害が相次いでいる。同時に1~2年に1回の頻度で水不足にも悩まされている。</p> <p>津軽ダムの建設は、治水・利水・環境面での期待が大きく、流域住民の安心・安全な生活を確保できるものとして期待されている。</p>			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	7,812 百万円	9,664 百万円	1,852 百万円
	(2) 維持修繕費	949 百万円	984 百万円	35 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	8,761 百万円	10,648 百万円	1,887 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	5,784 百万円	8,614 百万円	2,830 百万円
	(2) 走行費用減少便益	317 百万円	459 百万円	142 百万円
	(3) 交通事故減少便益	11 百万円	4 百万円	7 百万円
	(4) 冬期便益	1,428 百万円	2,286 百万円	858 百万円
	(5) 防災便益	- 百万円	652 百万円	652 百万円
	総便益(B)	7,540 百万円	12,015 百万円	4,475 百万円
	地域修正係数( )		1.507	
	修正総便益(B')	- 百万円	18,107 百万円	18,107 百万円
費用便益比	費用便益比(B/C)	0.86	1.13	
	修正費用便益比(B'/C)	-	1.70	
費用対効果分析 (B/C)	<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省道路局、都市・地域整備局)</p> <p>道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成22年3月 県土整備部道路課)</p>			(a) . b
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <p>設計速度の見直し(50km/h 60km/h)</p> <p>地域修正係数の新たな導入(平成22年3月~)「津軽地方生活圏1.507」</p>			(a) . b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <p>路盤材、舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。 伐根材のチップ化による法面保護、現場発生土の有効活用による盛土により、経費の縮減を図っている。 緩速載荷工法（動態観測含）による軟弱地盤対策 経済性に配慮</p>	(a) . b
代替案	<p>【代替案の検討状況】</p> <p>ダム建設による新たな水没エリアを迂回する代替案としては、現在の付替県道ルートをもっと大きく迂回するバイパス案が考えられるが、山間部を大きく改変する事業内容となり、事業コストの大幅増加や周辺環境への影響が極めて大きいものと考えられる。また、現道沿線には地域集落が点在することから、生活道路としての機能を維持するためには現道を大きく迂回するバイパス案は最善とは言えない。 上記内容を関係機関と地元住民が協働で協議を進め、地域の理解も得たうえで用地買収や工事を進めてきた経緯を踏まえ、実施中の現計画が最適となる。</p>	(a) . b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C															
住民ニーズの把握状況	<p>【住民ニーズの把握方法】</p> <p>津軽ダム建設促進期成同盟会（S59年2月設立、弘前市を含む8市町村で構成）により、津軽ダムの早期完成が求められている。 弘前市水道事業者及び国営かんがい排水事業者からも津軽ダムの早期完成が求められている。</p> <p>【住民ニーズ・意見】</p> <p>度重なる湧水や洪水被害に見舞われる岩木川流域住民にとって、治水・利水両方の観点から、日常生活や地場産業を支える津軽ダムの早期完成が強く求められている。</p>	(a) . b															
環境影響への配慮	<p>【開発事業等における環境配慮指針への対応】</p> <p>(1) 対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>(2) 区分</p> <table border="0"> <tr> <td>農林地等の緑地や植生の改変</td> <td>地形や地盤の改変</td> <td>水系や水辺の変更</td> </tr> <tr> <td>海域環境の変更</td> <td>敷地整備段階での重機の使用</td> <td>土砂等の搬出・搬入</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理等</td> <td>道路(車歩道)、雨水排水路の設置</td> <td>基礎や地下建造物の建設</td> </tr> <tr> <td>低層建築物の建設</td> <td>高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高架構造物の建設</td> <td>海底・海中建造物の設置や建設</td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 特に配慮する対応内容</p> <p>津軽ダムでは平成5年4月に環境影響評価（閣議アセス）を実施済。 その後においても、世界自然遺産「白神山地」を抱えていることや、事業規模が大きく、かつ事業期間が長期に及んでいることから、環境影響評価法の技術的内容に準じて調査、予測、環境の保全のための措置の検討及び評価を実施している。（例：コピナゴコモリ、ハッチョウトンボ、ノダイオウ等の貴重種の保全や移植）</p>	農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更	海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入	廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設	低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮		高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設		(a) . b
農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更															
海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入															
廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設															
低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮																
高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設																
地域の立地特性	<p>(地域指定) 過疎地域、振興山村地区、農業振興地域、特別豪雪地域</p> <p>(災害の記録) H20. 5.25～6.10 融雪に伴う落石により、全面通行止め（<b>応急対策による安全確保とバイパス化による災害箇所を迂回</b>） H20. 8. 3～8. 4 大雨に伴う路面洗掘により、全面通行止め（ " " ） H20. 8.20～8.21 大雨に伴う路面洗掘により、全面通行止め（ " " ）</p> <p>(危険箇所情報) なし 本路線は世界自然遺産白神山地の玄関口に位置することから、周辺環境への配慮は極めて重要視される。</p>																

### 3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止（林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る）
評価理由	全ての項目が「A」評価であることや、津軽ダム事業の予定年次内の完成を支援する必要があることから、対応方針を「継続」とした。			
備考				

### 4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針（案）どおり	対応方針（案）を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止（林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る）
附帯意見	（附帯意見がある場合に記載）			
評価理由	（委員会意見が「対応方針（案）を修正すべき」の場合に記載）			